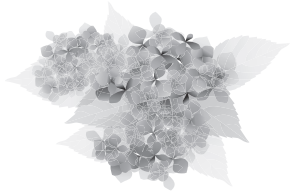
ほのかの日常活動紹介

江間　麻衣

Bさん（横地分類A1）は、優しく声をかけたり、キーボードで短いメロディーを弾いたりするとにこやかな表情になります。また、近くに職員が近づいてくると、視線の動きを止めてじっと辺りをうかがっていることがあります。

Bさんに『いろんなおとのあめ』という詩を語りかけました。『いろんなおとのあめ』は、「はっぱにあたって、ぴとん」「まどにあたって、ぱちん」のように最後に擬音語が入る同じような言葉のリズムが繰り返され、最後は「あめ、あめ、あめ、あめ、いろんなおとのあめ」と異なる言葉のリズムに変わる詩です。語りかけをはじめるとだんだんとBさんの視線の動きが少なくなり、じっと真剣な表情で聴いています。ときには「ぱらん」や「ぷちん」のような半濁音の擬音語の響きに笑顔になることもありましたが、すぐにまた真剣な表情に戻って語りかけを聴いていました。読み進めるなかで擬音語の前に間があくとグッと目に力がこもり、擬音語が続くと目の力が和らぎました。Bさんは次の言葉に続く擬音語を待っていたようでした。同じような言葉のリズムが繰り返され、最後に異なる言葉のリズムに変わると顔が上がり、言葉のリズムの変化を感じているようでした。

Bさんはのびやかな曲調の歌いかけもよく聞いています。『ビリーブ』を歌いかけると、前半の細かく音程が上下するメロディー部分は視線を左右に動かしたり、笑顔を見せながら聞いています。中盤になり「世界中の～」と音程がだんだんと上がっていく部分から、じっと真剣な表情になってきました。「いま～未来の～」と伸びやかなメロディーが続く後半になると、Bさんは体に力を入れながら歌いかけにじっと集中して聴いていました。伸びやかなメロディーが出てくる中盤以降からは、メロディーと共にBさんの歌いかけへの注目が高まっていることが感じられました。歌いかけが終わるとBさんは一拍おいてから体の力が抜け、表情もにこやかになりました。同じように伸びやかに音程が上がり下がりする『仰げば尊し』を歌いかけました。歌いかけると職員の方へ視線を向けながら聞いています。「この～年月～」と伸びやかにメロディーが高くなっていくと、口角が上がり明るい表情に変わりました。最後の「今こそわかれめ～」で間があき歌いかけが止まると、小刻みに視線が動き、歌いかけの続きを待っているようでした。「いざさらば」と続きを歌い終えると微笑んでいました。Bさんは途中の間をただ音のない部分や終わりとしてではなく、歌の間合いとして感じているようでした。



日常活動で使用した本の紹介

西巻茅子作
株式会社こぐま社発行

ひろかわ　さえこ作
株式会社アリス館発行

安西水丸作　主婦の友社発行

『たいせつな一日　岸田衿子詩集　詩と歩こう』
岸田衿子著　水内喜久雄選・著
理論社発行

新入・異動職員紹介

●1号館　豊田　藍

4月より育休明けで配属になりました。復帰前は病棟経験しかないため分からない事が多くご迷惑をかけますがお願いします。利用者1人ひとりとの関わる時間を大切にして仕事に取り組みたいと思います。

●2号館　岩﨑　吏世

4月より2号館へ配属となりました。学生の頃よりいつかはここで働きたいと考えていたので、配属が決まった時には緊張はありますがとても嬉しかったです。ご迷惑おかけしますが、よろしくお願いします。

●3号館　磯部　祐理子

これまでとは全く違う職場・領域での復帰に不安もありますが、看護師として大きく成長できる機会を頂けたと感じています。1日でも早く利用者に信頼してもらえるスタッフになれるよう、努力していきたいです。よろしくお願いします。